

KOBELCO

コベルコ建機株式会社 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.

東京本社：〒141-8626 東京都品川区北品川五丁目5番15号(大崎プライトコア5F) ☎03-5789-2111
広島本社(広島事業所)：〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港二丁目2番1号 ☎082-943-5321
大久保事業所：〒674-0063 兵庫県明石市大久保町八木740 ☎078-936-1331
大垣事業所：〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地7 ☎0584-80-0500

グローバルサイト <https://www.kobelcocm-global.com>
日本エリアサイト <https://www.kobelco-kenki.co.jp>

人と地球の未来を考える コベルコ建機グループ 社会環境報告書 2018

●報告書の対象に関して

【対象組織】 コベルコ建機株式会社および、グループ関連企業を対象としています。
【対象期間】 2017年4月1日～2018年3月31日(一部2018年4月1日以降の情報を含む)
【報告書発行】 2018年7月

真に価値のある製品やサービスを創り続け、より良い社会の実現に貢献する

統合によって確立した、より強固な事業基盤

当社グループの事業発展を目的として2016年度に策定した中期5カ年計画は、実行開始から2年が経過し、今年度で3年目を迎えました。2018年度は、お客さまのニーズや需要動向の変化もあり、最終2020年度の仕上げに向けて非常に重要な1年になると考えております。

この中期5カ年計画と同時にスタートしたのが、コベルコ建機株式会社(ショベル事業)とコベルコクレーン株式会社(クレーン事業)の経営統合による新生コベルコ建機の誕生です。経営の効率化や商品開発力の強化、グローバル展開の加速といった組織改編による効果はこの2年間で順調に進み、ショベル事業とクレーン事業の統合は、2017年末の欧州拠点統合で体制が整い、いよいよ大きく羽ばたけるタイミングとなっています。

多様化するニーズを捉え、迅速に対応

昨年を振り返ると、中国、インドネシア、インドなどアジア諸国での油圧ショベル需要の回復、堅調な欧米市場など、世界的に建機需要は増加を辿っています。わが国でも、高度成長時代に57カ月続いた「いざなぎ景気」を昨年9月に上回り、オリンピック需要、インフラ更新需要をベースに建設投資が堅調だったと評価しています。

好調の波が続く一方、建設業界での大きな課題のひとつが人手不足です。私たちはその解決策として、ショベル事業においては経験の浅いオペレーターでもベテラン並みの作業性を実現する3Dマシンコントロール機「ホルナビ/ホルナビ+PLUS」でi-Construction対応を加速。また、コベルコ建機独自のIoTを駆使し、事前にメンテナンスを提案する予防保全機能「Kスキャン」を搭載するなど、予期せぬ機械停止への回避対策技術も打ち出しています。そして建設業界のもうひとつの課題である労働災害撲滅に関しても、建機メーカー初の自動減速/停止機能を備えた衝突軽減システム「K-EYE PRO」の商品化を実現しました。

これらに加え、クレーン事業では海外汎用用途での300tクローラークレーンや基礎用途TKクレーン新モデルの販売開始など、お客さまの新たなニーズに対してスピーディにお応えし続けています。

豊かな社会のために必要な存在であり続ける

社内へ目を向けると、コベルコ建機グループ全従業員が働きがいのある環境、やりがいのある仕事に取り組めるよう、2016年度からスタートした働き方改革のさらなる展開を推進しています。取り組み開始から2年が経ち、その効果や影響を実感することも多い中、やはり言うだけではなく、私自身が率先して行動することで周囲が変わっていくことをより強く感じました。個々の意識を変えていき、活発なコミュニケーションで支え合いながら仕事の質を向上させ、個人や企業、社会へ好影響を与えるライフスタイルの確立を目指しています。

私たちはこれまで「低燃費」「低騒音」といった、環境に対する新たな価値を生み出してまいりました。全ての行動・理念の大前提となるコンプライアンスを遵守し、コベルコ建機グループ全社員に共有される精神・価値観・行動規範である「SPIRIT」を従業員一人ひとりが体現することで、お客さまにとって真に価値のある製品やサービスを創り続けていきます。日々の活動を通じて社会へ価値を提供し、社会とともに成長していく。そして、豊かな社会の実現のために、必要とされ続ける存在でありたいと願っています。



コベルコ建機株式会社
代表取締役社長
榎木 一秀
Kazuhide Naraki

企業理念

◆ 経営理念

コベルコ建機グループは、ユーザー現場主義に基づき、真に価値ある商品、サービス、情報を提供することで顧客の満足に応えるとともに、豊かな社会の建設に貢献する。

◆ 経営ビジョン

私たちは、人と環境にやさしい循環型社会創出のため、世界中のお客さまに対し、創造的な“知と技”により、革新的ソリューションを提供いたします。このお客さま価値の最大化活動を通じて、私たちは持続的成長を実現しグローバルトップブランドを目指します。

◆ SPIRIT

SPIRITとは、全世界のコベルコ建機グループ従業員を対象に、世代、国、地域を超えて共有される精神・価値観・行動規範です。



コンプライアンス

—INTEGRITY— 真摯な姿勢で

コンプライアンスは、全ての行動・理念の大前提です。そして、**INTEGRITY**(真摯)はコンプライアンスを実現するために最も重要な姿勢です。国や地域、会社や部署、取引先、一対一の関係においても、私たちは誠実を旨に、様々なルールとマナーを遵守しなければいけません。いかなる権力や圧力にも屈せず、高い倫理観と真摯な姿勢を持ち続けることが、スピリットを含む企業理念を体現するための基盤になります。理念を、自分の信念に変え、1つ1つ実現していくこと。それこそが、私たちが目指す姿です。

環境保全活動

製品の開発から製造に至るまで、一貫して環境負荷の低減を意識し、地球にやさしいものづくりを行っています。

コベルコ建機グループのCSR

コベルコ建機グループは、建設機械づくりの視点から、また企業としての立場から、人と地球にやさしい活動を続けています。CSR組織体制を整え、活動方針に従って、グループをあげてCSR活動に取り組んでいます。

社会・地域活動

地域に寄り添い、支え合いながら継続的な支援活動を実施し、これからの未来を育むために必要とされる企業を目指します。

ステークホルダーとの関わり

積極的に情報共有を行い、相互理解を深め業界全体の発展に貢献します。また、より良い職場環境づくりを推進します。

【人と地球の未来を考える、コベルコ建機グループのCSRメッセージ】

MESSAGE 1

コベルコ建機グループは、これまで環境問題に取り組んだなかで培ったノウハウを活かし、私たちならではの地球環境保全を行っています。

MESSAGE 2

コベルコ建機グループは、「人と地球の未来を考える」をコンセプトに、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めています。

MESSAGE 3

コベルコ建機グループの社員は、より良い未来の実現に向け、共に泣き、笑い、励まし合いながら進んでいくパートナーであり、大切な仲間です。

CSR活動方針

- コベルコ建機グループは私たちならではの地球環境保全を行います。
- コベルコ建機グループは、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めます。
- コベルコ建機グループは、社員と共により良い未来の実現に向けて進んでいきます。

グループ環境管理基本方針

基本方針：『グループ環境経営の実践による企業価値向上』

コベルコ建機グループは、グローバルな環境先進企業、持続して成長する企業、人間の幸福を実現する企業を目指し

- (1) 環境に配慮した開発・生産活動
- (2) 製品・サービスでの環境への貢献
- (3) 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすとともに、企業価値を高めます。

活動実績

特集Ⅰ

地域貢献



震災から10年を迎えた四川大地震を振り返る

中国・成都市に未曾有の被害をもたらした四川大地震。ユーザー、販売代理店とともにさまざまな被災地支援を行い、その活動の輪は、精神を引き継ぎ形を変えながら今もなお続いています。地域とともに歩むコベルコ建機グループの復興支援活動を振り返ります。

PAGE 05

環境保全活動

製品



次世代を見据えて創り出すコベルコ建機の環境技術

低燃費や低騒音をはじめ、コベルコ建機の製品には環境性の高い数々の技術が搭載されています。それと同時に作業性・安全性も追求し、地球上のあらゆる現場で活躍する「地球型建機」として進化を遂げました。さらなる作業効率化を実現し、地球環境の未来を見据えた高い環境性能で時代をリードします。

PAGE 11

生産



細かな無駄をなくし、日々積み重ねることで環境に貢献

製品物流の根本的な見直しをはじめ、各生産拠点では製造工程におけるエネルギー損失の改善やLED照明の採用などを中心に、CO₂低減につながる省エネ活動や廃棄物削減の取り組みを進めています。製品の環境性能だけでなく、製造・輸送過程においても環境保全への高い意識を持ち、環境負荷低減に努めています。

PAGE 13

社会・地域活動

交流



地域とともに支え合い、より良い豊かな社会づくりへ

コベルコ建機グループが事業を行う地域において、従業員の直接参加を基本とした継続的な支援活動を行っています。地域振興イベントへの参加や清掃美化活動、森林整備活動などさまざまな活動を通じて地域住民の皆さまとの交流を深め、より良い豊かな社会づくりに貢献したいと考えています。

PAGE 15

特集Ⅱ

ワークスタイル



個人・会社・社会が好影響を与え合うライフスタイルへ

個人の幸せと企業力の向上を目指し、豊かで充実した働き方を追求するプロジェクト「ワークスタイル変革」。3年目を迎えたこの取り組みは、社員一人ひとりの意識へ浸透しつつあり、企業全体としての効果も徐々に生まれています。

PAGE 17

ステークホルダーとの関わり

お客さま・取引企業



コミュニケーションの輪を広げ、互いの良さを高め合う

展示会への出展や生産連絡会など、お客さまや取引企業との多彩なコミュニケーションの場を設け、情報共有や信頼関係の構築に努めています。互いに理解を深めながら切磋琢磨することで連携の強化につながり、グループの枠を超えて業界全体での繁栄を目指しています。

PAGE 19

職場



一人ひとりが働きがいを感じる職場を目指して

全従業員が心身ともに充実して働けるよう、ワークライフバランスを考慮した働き方改革を積極的に推し進めています。また、ダイバーシティの推進や人材育成制度の充実など、社員一人ひとりが活躍できる職場環境づくりを進め、社内活性化と技術力向上を目的としたさまざまな活動を実施しています。

PAGE 20



震災から10年

2008年、中国四川省で発生した未曾有の大地震。成都市にあるコベルコ建機グループの拠点も被災したが、自社の復旧と同時に、地域の復興に力を注いだ。支援は継続し、社員の声でCSR委員会も立ち上がった。それから10年、形を変えながら社会貢献は続いている。心の傷とともに多くの気づきやきっかけにもなった震災からの復興を振り返る。

復興支援活動実績

被災地支援活動

甚大な被害を受けた成都市に対して、被災地の復興支援として油圧ショベル2台(20tクラス、25tクラス)、ホイールローダ4台を震災翌日に寄贈しました。また、(株)神戸製鋼所およびコベルコ建機グループ全体で、義援金100万円の支援を行いました。

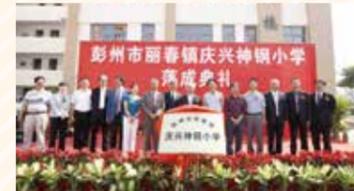
建設機械の寄贈
6台



慶興神鋼小学校の再建と支援

成都市による被災した小学校の再建復興計画に加わり、震災で全壊した彭州市の小学校の再建を実施。震災から約1年半後の2009年9月から新校舎での授業が行われました。学校内の備品や遊具などの寄贈も行い、継続的な支援を続けています。

ランドセルの寄贈
725個 (2009~2017年)



植林活動

震災で崩れた山の整備のため、地域の植林活動に参加しています。2011年にはJICA(独立行政法人 国際協力機構)と四川省の共同プロジェクトに協力し、その後も各地の植樹祭に多数の従業員が携わり、森林保護を積極的に進めています。

植林活動の参加者
188人 (2011~2014年)



建機メーカーとしての使命を胸に

2008年5月12日、マグニチュード8.0の大地震が中国四川省を襲った。地域は壊滅的な状況となり、震源から90kmの成都市にあるコベルコ建機グループの2つの拠点も被災。幸い被害が少なかったこと、社員の責任感と団結力で工場は驚異的なスピードで再稼働を開始。そして同時に、被災地への復興支援に積極的に取り組んだ。いち早く建機を提供し、義援金の寄付もした。しかし見えないところで力を入れたのは、被災地で稼働し続ける建機のサポートだった。震災復興チームのリーダーだった李朝明は当時を語る。「建機メーカーとしてすべきことは、復興に不可欠なショベルをつくることと、ショベルの稼働を支えること。それが私たちの復興支援です」。サービスマンを被災エリアの各地に派遣。現場でのトラブルにすぐ対処できるように泊り込み、テント生活は短いところでも1カ月に及んだ。被災者に寄り添い1分1秒でも早い復興を目指した取り組みは、人に、社会にやさしいコベルコ建機グループのCSR活動の姿勢とも重なる。



神鋼建機(中国)有限公司 AS本部 副本部長 李朝明

TALK SESSION. 1

復興支援の最前線から

災害からの復興に建機は欠かせない。しかし山間にある被災地への持ち込みは危険が伴い、稼働環境も過酷だ。ショベルの被災地支援を縁の下で支えた社員たちに現場の話を聞いた。

1,000km離れた東部も揺れた

——地震のときには、どこで何をしましたか。

徐 私は杭州(上海から南西150km)でサービスを担当していました。事務所で仕事をしていたら揺れたので、すぐにインターネットで調べたんですが、ショックでした。

程 同じくサービスマンとして、石家庄(北京から南西200km)の現場で機械のデータを取っていました。地震とは気づきませんでしたが、少し揺れました。事務所に戻ってニュースを見て初めて知ったんです。とても現実とは思いませんでした。

将 私は成都の営業本部で物流管理をしていました。地震が起きたときは建物の中にいたのですが、かなり揺れたのでみんな慌

てて建物の外に避難。怖かったですね。会社は3日間休業して、5月15日から再開しました。

ショベルを被災現場へ

——皆さんの担当した災害支援を教えてください。

将 再開翌日の16日にはコベルコ建機グループの最初の支援として、SK260とホイ-

ルローダを寄贈しました。私はそれを被災地まで届ける役目でした。さらに、寄贈ではないのですが、政府からミニショベル17台の注文がありました。被災地は山間部だったため、土砂崩れや道路の崩壊で大型ショベルを持って行けない場所も多く、小さい機械が多く必要だったんです。5月20日に成都からの出荷分13台を、責任者として運送しました。

徐 残りの4台は上海から持っていったんですが、出荷手続きを私が担当しました。



左から
神鋼建機(中国)有限公司 AS本部 技術部 技術課 徐聰
AS本部 部品部 部品企画販売課 程晏偉
営業本部 営業業務部 製品管理課 将超

—被災地へ運ぶために、通常とは違う
ことがありましたか。

将 運送車7台にショベルを2台ずつ載せて、前後に誘導車をつけた計9台の車列を組みました。通常、中国ではショベルの運送に誘導車をつけないのですが、道路の状況が分からず危険なので、前後ともにつけて、先導を私が務めました。



—サービスの支援はどうでしたか。

程 5月20日に各地から成都にサービスマンが集められたんです。会社はそれまでに、被災エリアにある187台全てのショベルの状況を調査していて、エリアごとにサービスマンが2人1組で派遣されました。私も部品や道具をサービスカーに押し込んで、現地に行きました。地震で壊れた機械の修理やメンテナンスの後も、そのまま現場に泊り込んで、復旧活動を続ける建機をサポート。3カ月くらいテント暮らしでした。

徐 私は販売代理店のサービスマンと一緒に被災地に行きました。瓦礫の撤去や、人の救援、道路の修復など、ショベルはとにかくフル稼働です。建機が動かなくなったら、その場所の復旧作業がストップしてしまうので、私たちも必死でした。

過酷な環境で稼働するショベル

—通常の故障やトラブルと違うのはどんなところですか。

程 地震による故障は、物が倒れてきたり、ぶつかってきたような損傷が目立ちました。ホースが潰れるなど普通あまりないのですが、このときはたくさん見ました。

徐 被災地で活躍中の建機は、震災後の特殊な環境の中で休みなく稼働しているのです。ダメージを受けているものが多かったですね。しかし、とにかく動かしたいから、無茶な使い方をしてしまいます。燃料も不足していたので、粗悪なものを使っていました。オイルは真っ黒でドロドロ、ホースのシール

も傷んで油漏れしたり。瓦礫や土の埃がすごいので、フィルターもすぐに詰まります。

将 壊れるかもしれない使い方でも、動かすしかないんですよね。私がショベルを運んだときも、途中の道が半壊状態で、そばに建機が待機して、昼夜問わず壊れるたびに直していました。

徐 みんな気持ちは同じ。私たちが「一刻も早く」を一番考えて修理していました。

危険と隣り合わせの支援



—危険や大変なことがありましたか。

徐 ダムの亀裂や土砂崩れの多発で、堰止め湖が決壊しそうだったんです。目を追うごとに水位がぐんぐん増して、地域によっては人が避難しました。その近くにも現場がありましたから、不安はありました。

程 あちこちで道路が寸断されているので、車は途中でしか行けず、そこから歩いて現場に行くというケースもたくさんあったのですが、修理を終えて車まで戻るときに土砂崩れで道が通れなくなって車にたどり着けず、20kmくらい歩いたことがあります。余震も多くて道路が使えないことはしょっちゅうでしたね。あとは、蚊の多さに悩まされました(笑)。



—道路が通れないと、ショベルの運送も危険がそうです。

将 がけ崩れなどの危険はあったものの、幸い巻き込まれることはなかったです。ただ予想以上に時間はかかりましたね。ミニショベルを運んだ場所は成都から200kmくらいで、普通なら3~4時間で行けるところなんですが、地震で道がなくなったので迂回して、さらにその迂回路もたびたび崩れるんです。直しては車を通す、崩れては直す…

を繰り返していましたが、現地入りするまで丸4日かかりました。現地も混乱していて、引渡しに3日、帰りは徹夜で2日。普通なら1日で終わる行程が、10日近くかかったんです。

人と社会へのやさしさ

—災害支援に関わって、今どのように感じていますか。

将 中国では、危険な被災地にはまず軍が入ります。なので住民は軍の人を見ると助けが来たに分かるんです。その次がショベル。「ショベルを見て安心した」と被災者の方に言われたのがうれしかったです。家を建てたり、道路をつくったりするのは「ワクワクすること」ですが、それ以外に、ショベルが人を「安心させるもの」という存在であることに感動しました。改めてショベルの存在意義を感じました。

徐 被災地では燃料が不足していました。同じ量の燃料なら、コベルコ建機のショベ

ルは他社製品よりも長く動きます。それを考えると、見えないところでより貢献していると思えました。

程 私は大学を卒業してからずっとコベルコ建機グループでしか働いていませんが、普段から人を大切にする会社だと感じていました。それが震災支援のときに発揮されたと感じます。成都など近くの町を基点にして支援をした企業は多いと思いますが、現場に部品や機械を持ち込んで、泊り込みで建機のサポートに当たったのはわが社ならではのじゃないかと思えます。

将 コベルコ建機グループはもともと低燃費やエコなど、環境意識が高い会社ですが、私自身はあまり気にしていなかったんです。でも震災をきっかけに、人や環境について考えるようになりました。CSR委員会でもできましたし、今後は何かあれば、もっと万全な体制で支援ができると思います。



【仲間たちのサポート】販売代理店の支援

●支援内容	24時間体制の無償修理	無償の部品提供	義援金
-------	-------------	---------	-----



四川格瑞特華業工程機械有限公司 董事長
袁鴻夢さん
2001年よりコベルコ建機の販売代理店。社員105人で、四川地区に6支店を展開している。

ショベルを動かすため、修理も部品も無償で提供

震災が起きたとき、たまたま3人のサービスマンが仕事で現地にいきました。状況を聞いて、彼らにはそこに残るように言い、ほかのサービスマンも各地に派遣。十数人がテントで過ごしながら被災地での建機トラブルに対応しました。修理も部品も無償です。場所によっては軍などの関係者以外は新たに入れませんが、軍の人が的確に作業できるよう、その場で機械の特徴を教えることもありました。サービスカーを走らせながら、出会ったコベルコユーザーと互いに声を掛け合っており、その場で修理をしたり、部品を差しあげたりすることもあったようです。

支店に部品を買いに来られた方にも、少しでも復興の助けになればと全て無料で提供。ショベルの貸し出しは、予想できる交換部品を多めにつけてお渡ししました。被災地で建機を動かすためのサポートはできるだけやりましたね。何かをやらずにはいられない心境でした。

【仲間たちのサポート】ユーザーの支援

●支援内容	機械の無償貸与	住民の救出	瓦礫の撤去	道路の修復
-------	---------	-------	-------	-------



彭州市鑫惠建築機械租賃有限公司 董事長
吳運富さん
2008年に起業。現在は7人のスタッフと3台の中型ショベルでさまざまな現場に向かう。

軍の指揮下で被災現場の救助・復旧活動に参加

家も会社も被災エリアにあり、地震直後に軍の主導で救援と復旧作業が始まりましたので、われらは志願して軍の指揮のもとで活動しました。最初は人の救出。倒壊した建物の瓦礫をショベルで撤去して、埋まった人を助け出すのです。震災直後から1週間、オペレータを交代しながら捜索をし、数名を助け出しました。その後は道路の修復作業です。燃料も全て自前ですが、何かしなければという強い気持ちが原動力でした。

川が増水して、向こう岸に人が取り残されたこともありました。流れは速く、川の底は瓦礫だらけだったので、ショベルの背中に乗せて救出しました。建機は高さもありますし、悪路も平気ですからね。何度も往復して100人以上を運びましたよ。悲惨な現場でいろいろな活躍してくれたショベルは私の誇り。人生の大切なパートナーです。

TALK SESSION. 2

団結力と使命感で迅速な再稼働へ

多くのメーカーが工場復旧に難航した成都で、いち早く再稼働を果たした神鋼建機(中国)有限公司。
現場を牽引したリーダーたちが当時の様子を語った。

常務副総経理・李平、副総経理・李祥富
(当時:工場長)、工場長・敬霊(当時:組立
課長)が震災を振り返る。

初めて経験した地震の恐怖

—震災時はどんな状況でしたか?

李祥富 私は事務所にいました。ちょうど目の前が駐機場だったので、地震が起きた瞬間は機械の振動だと思ったんです。でも揺れが続いて、これはおかしい!と。地震だと気がついて急いで外に逃げました。池が波打っているのを見てゾッとしました。

敬 揺れたのは、日本人スタッフと一緒に打ち合わせをしている最中でした。地震の体験がなかったので、車がぶつかったのかと。日本人が机の下に潜るのを見て、私も真

似をしたのですが、建物がガタガタ揺れて怖かった。崩れるかと思いました。揺れが長く、あまりに危険なので全員野外に。結局、倒壊はなかったのですが、外壁が剥げ落ちたところがありました。

李平 震災時、私は入院中で会社にはいなかったのですが、適宜、連絡や報告を受けていました。

仲間への配慮と連携

—避難後の対応を教えてください。

敬 まずは高い建物から離れたところに集まって、社員全員が揃っているか、怪我はないかを確認しました。余震が続いていたので動くのは危ないと判断して、しばらく待

機。お互いにいたわりながら、2時間くらいでしょうか。その間に管理職が集まって話し合いました。

李祥富 電話もインターネットもつながらず、状況が全く分からなかったのも、その場で対策チームをつくって、それ以外の社員は全員帰宅してもらいました。残ったのは各部署のリーダーと、設備の担当者、安全管理の担当者で、30人くらいですね。

—安全に統率できましたか?

敬 みんな慌ててはいましたが、一番最初の動きは自然に生まれたように思います。仲間の安全確認などは、指示なくとも社員が互いにやり始めていましたね。それから全体で改めて確認すると同時に、二次災害を防ぐために工場のガスや高圧電源を切りました。



左から
神鋼建機(中国)有限公司
工場長
敬霊
常務副総経理
李平
副総経理
李祥富

李祥富 取り乱すこともなく、団結のようなものがありました。帰宅後は、社員には一旦、3日間休んでもらい、家や家族、身近な人のケアをしてもらうようにして、その間に対策チームが状況把握と社内外の対応を進めました。

工場再稼働へのステップ

—対策チームの動きは?

李祥富 翌朝から取り組んだのが、被災エリアの代理店やユーザーの被害状況の確認と、出荷済みの全機械の故障やトラブルなどの調査です。被災地では建機は命綱ですから最優先事項のひとつでした。

敬 対策本部を体育館に設置して、交代で泊まり込みました。避難所も兼ねたので、怖くて家で寝られないという社員や家族も20~30人くらい泊まっていたね。夜間のパトロールは、震災直後から6月上旬まで続けました。

李祥富 工場の復旧については、建物の安全を確認して、工場設備の安全と機能を調査・調整が主です。急ぎましたけど、丸2日かかりました。

敬 一刻でも早くを目指しつつ、品質を保つ設備は特に神経を使いました。いかなるときでも品質を維持しなくてはならないですから、設備メーカーからもスタッフを何人が派遣してもらって総点検。設置済みのもの

のを調べるのは、新しく設置するより難しいのです。

メーカーとしての使命

—役員立場から工場再開についての考えを聞かせてください。

李平 被災地支援に建機はなくてはなりません。被災地に近いからこそ、被災地のニーズに素早く応えられるよう、つくり続ける必要があります。被災地の支援はコベルコ建機グループとして進めていたので、我々は工場の再稼働に最大限の努力をしました。

李祥富 社員にも、工場としての責任や使命を理解してもらえるように働きかけ、どんどん士気が高まっていきました。“1台でも多く!”は社員の総意だったと思います。

李平 また、震災時の最優先は人命ですが、生活の復興のためには経済的な復興が欠かせません。メーカーとして、工場を再稼働させ、経済活動を復旧させることは使命だと思っています。

李祥富 私は阪神大震災のときに日本にいたんです。そのとき神戸製鋼所は、自社の被災で一部製品がつかれないときも、他社から仕入れて、受注したものを納品しました。たとえ損失が出たとしても、通常に近い取り引きをすることで、経済を普通に回そうということでした。それも心に残っていました。

思いやりのある企業風土

—改めて振り返ってみて、どう感じますか?



李平 コベルコ建機グループは被災地支援もいち早く対応して、市からも表彰されています。社員が自主的に集めた募金もかなり大きな額でした。コベルコ建機グループ

の中にある団結力や、他者を思う姿勢を改めて感じています。

敬 指示や連携はスムーズでしたし、一致団結して協力し合ったからこそ素早い復旧だったと思います。社員同士の団結がさらに強くなったのは大きな財産です。

李祥富 直接的な災害支援ではないですが、工場として復興へつなげるための役割を果たすことができました。会社は被災した社員やサプライヤーにも援助をされていて、社内はもちろん関係企業や地域社会にも、配慮ややさしさがあります。

李平 社内外からの信頼がより高くなったと感じますね。感謝の声も多くいただきました。加えて、社員に社会貢献への気持ちが強くなったと思います。震災を機にCSR委員会もできて、大学や小学校などへの支援が継続しています。これからも人や社会にやさしい会社として、地域と共存・共栄していきたいと思っています。



事業サイクル全体で取り組む環境保全

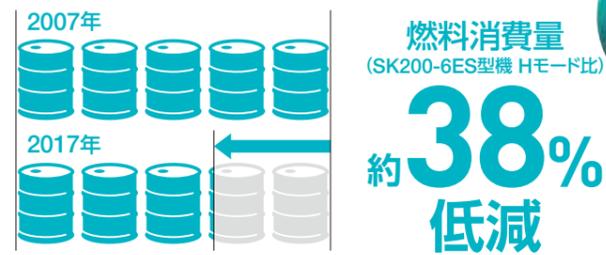
高い環境性能を誇る製品の開発や、工場での環境負荷低減の取り組みなど、製品開発から生産、物流、販売まで、事業サイクル全体を考慮した環境保全を推進しています。

さらなる高みを目指すショベルの環境性能

コベルコ建機グループは設立以来、常に時代をリードする環境技術の開発に取り組んでいます。業界トップクラスの燃費性能や低騒音、排出ガスのクリーン化を実現した環境エンジンをはじめ、作業効率や安全性の向上のためIoTを活用した独自の先進システムも搭載。コベルコ建機の油圧ショベルは今もなお進化を続けています。

● 業界の革新的チャレンジ低燃費の追求

油圧の流れを効率的に制御する新ブーム/アーム回生や、圧力損失の低減により、従来機に比べ、全てのモードで燃費性能がアップ。この10年では約38%の燃費低減を実現しています。



● 排出ガス 2014年規制をクリア 排出ガスのクリーン化

エンジンの排気系に尿素SCR※1システムを搭載し、NOx※2を無害な窒素と水に分解。PM※3を確実に捕集・焼却する排ガス後処理装置※4との組み合わせにより、排出ガスを大幅にクリーン化します。

※1. SCR: Selective Catalytic Reduction ※2. NOx: 窒素酸化物
※3. PM: 粒子状物質 ※4. 排ガス後処理装置: DPFまたはDOC



進化するクレーンの環境性能

業界初となる省エネ機能を多数搭載したマスターテックGシリーズや、コベルコ建機独自開発の省エネシステム「Gモード」の進化など、クレーンにおいても環境性能の追求を続けています。最新の「TK750G」では、輸送幅3m未満を実現した輸送性の向上や排出ガス2014年規制適合エンジンの搭載など、作業性・耐久性に加え、高い環境性能を兼ね備えています。

● 最小輸送幅2.99m。コンパクトなレイアウトで優れた輸送性能を実現

基礎土木を中心とした現場で活躍し、高い評価を受け続けてきたTKシリーズの新モデル「TK750G」。堅牢な構造や作業性、高いつり能力などは従来そのまま、最小輸送幅2.99mを実現し、トレーラーの手配や申請手続きの簡素化が可能に。新たにオプションでブーム脱着装置とクローラ自力脱着装置を搭載し、さらに輸送性が向上しました。

● 最新の排出ガス2014年規制適合エンジンを搭載

エンジンには排ガス後処理装置として「尿素SCR」を搭載。従来機に比べPM※1が約80%、NOx※2が約93%の排出量削減を実現し、排出ガスをクリーンに保ち、厳しい排ガス規制に適合しています。また、静音技術を駆使して低騒音型建設機械の基準値をクリアしており、排ガス、騒音に配慮した高い環境性能を誇ります。

※1. PM: 粒子状物質
※2. NOx: 窒素酸化物

● ハードな基礎土木作業に耐えうる 鍛え抜かれた頑丈な構造

材料・構造・溶接を最適化した高剛性4プレート構造ブームを採用することで、軽量化と耐久性を実現。さらに形状・肉厚・材質を変更した強化型シューの搭載により、強度もアップしています。

TOPICS

効率化を図るショベルの新機能

現場の生産性を大幅に高める ICT施行サービス 「ホルナビ」



ホルナビは“掘る”を“ナビ”するICT施工ブランドです。カーナビ感覚で導入しやすい2Dガイダンスシステムと、GNSS※を使用し3次元で建機の位置や向きを測定し、設計データと照合しながらより高精度な作業ができる3Dガイダンスシステムがあります。さらに、アームレバー操作だけで設計面に沿った施工や、設計面を傷つけることなく施工ができる3Dマシンコントロール「ホルナビ+PLUS」も加わり、現場の用途に合わせたICT施工で生産性の向上をサポートします。※GNSS:GPSなどの衛星を用いた測位システムの総称

建機メーカー初の新技術 衝突軽減システム 「K-EYEPRO」



旋回や後方への走行時に死角エリアで人や障害物を検知した場合、ディスプレイ表示とアラームでのお知らせに加えて、自動的に減速/停止。建設現場における事故の6割を占めるという「挟まれ」「ひかれ」事故発生の抑制に有効です。

旋回時の制動イメージ



※ダミー人形を使用しています。

後方走行時の制動イメージ



※ダミー人形を使用しています。

コベルコ建機独自の予防保全システム 「Kスキャン」

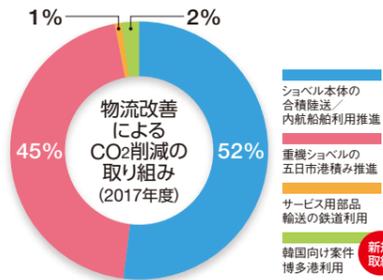


水温や油温、燃料噴射量やポンプ出力などを読み取り、IoTによる遠隔管理で状態観察を行います。サービスマンのメンテナンス時も、ハイアイドル状態で健康診断を実施、データはコベルコサーバーでタイムリーに処理され、人の目とデータ解析によるきめ細かい分析で、気づきにくい予兆を検知。故障を未然に防ぎ、ショベルの安定稼働を支えます。

環境保全への取り組み

物流改善でCO2低減

製品物流を見直すことで、CO2排出量低減に取り組んでいます。2009年10月に特定輸出申告制度を導入し、五日市工場で生産する中大型ショベルは、工場に隣接する五日市港から輸出しています。神戸港から輸出していたそれまでに比べ、港までの製品輸送にかかるCO2排出量が大幅に低減しました。さらに2017年度は、OEM生産ショベルの出荷も神戸港から近隣の博多港へ変更。製品輸送の距離が半分近くに短縮され、CO2排出量の低減が可能になりました。これら物流改善の取り組みを積極的に推進し、2017年度の原単位※は前年度比9.0%改善を達成しました。



※輸送に係るエネルギー使用量(原油換算)÷コベルコ建機(株)単体の売上高

省エネ活動の推進

継続して行っている省エネ活動として、各工場で電力使用量削減の取り組みを推進しています。広島事業所では2017年度の取り組みのひとつとして、工場で使用されるエアの損失改善を実施。損失量30%以下を目標に掲げ、働き方改革による業務時間の短縮やエア漏れの是正によって、前年度比約9%の電力消費量削減を達成しました。2018年度にはエア積算計を導入し、より細かな損失改善を行い損失量のさらなる低減を目指しています。また、組立棟の天井灯にLEDを設置する予定で、広島事業所内の各施設において照明のLED化を引き続き行っていきます。



産業廃棄物の削減

廃棄物の削減活動の一環として、取引会社から納入される部品の梱包部材をダンボールからプラスチック製の専用パレットに変更し、使い捨てられるダンボールの廃棄量を削減する活動を各工場で継続して行っています。広島事業所の五日市工場では、前年度比8.3%削減を達成。取引会社との協力により専用パレット化を進め、ダンボール廃棄量のさらなる削減を目指します。

そのほか、木くずや金属くずなどの産業廃棄物や事務系一般廃棄物、廃油の削減など、事業所全体での廃棄物処理の適正化に向けた取り組みを広く展開しています。



製造工程における環境と安全対策

※五日市工場における生産工程の場合

荷受け

製作

室内の白色塗装
壁や床は白色で塗装し、自然光を採り入れた設計で明るく

塗装

室内のフルフラット化
段差をなくし、作業者の安全性を向上

組立

ライン化された塗装工程
ショットブラスト・下塗り・上塗り・乾燥のライン化で効率アップ

検査

AGV (無人搬送台車)
搬送の安全性向上と作業効率化を実現

粉塵量を監視するクリーンメーター
常に粉塵量を監視して、塵や埃の混入を抑制

出荷

五日市港から船積みでの出荷
海外向けの多くを近隣の五日市港から船積みし、世界中へ出荷

環境数値

事業活動に伴う排出量

コベルコ建機グループは、開発・生産・物流・販売の事業サイクルに合わせ、さまざまな環境保全活動を展開しています。工場ごとのCO2低減につながる省エネ活動や廃棄物削減などの取り組み、生産や開発においても低燃費などの環境性能を高めた製品づくりを進め、環境保全に努めています。

ここでは、2017年度の国内生産拠点における環境数値を紹介します。



広島事業所

■大気

項目	設備	規制値	実測値(最大)
NOx	フレーム塗装下地	230	28
	フレーム塗装上	230	14
	ATT塗装	230	8
ばいじん	フレーム塗装下地	200	0.004未満
	フレーム塗装上	200	0.003未満
	ATT塗装	200	0.003未満
ダイオキシソ類	該当なし	—	—

■水質

項目	規制値	実測値(最大)
COD	—	—
SS	—	—
油分	35	30
ダイオキシソ類	—	—

■化学物質

物質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大気	公共用水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	120,000	0	0	0	0	30,000	塗装
エチルベンゼン	47,000	0	0	0	0	3,600	塗装
トルエン	21,000	0	0	0	0	9,400	塗装

取扱物質総数 4

大久保事業所

■大気

項目	設備	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—
ばいじん	該当なし	—	—
ダイオキシソ類	該当なし	—	—

■水質

項目	規制値	実測値(最大)
BOD	600	2,400*
SS	600	3,200*
油分	5	4.4
ダイオキシソ類	—	—

*基準超過については、発生箇所および原因究明を行い、再発防止に向けた取り組みを進めています。

■化学物質

物質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大気	公共用水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	60,000	0	0	0	0	7,800	塗装
エチルベンゼン	10,000	0	0	0	0	2,200	塗装
トルエン	54,000	0	0	0	0	16,000	塗装

取扱物質総数 6

大垣事業所

■大気

項目	設備	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—
ばいじん	該当なし	—	—
ダイオキシソ類	該当なし	—	—

■水質

項目	規制値	実測値(最大)
COD	1.65 (kg/日)	1.39
SS	40	2
油分	5	1
ダイオキシソ類	—	—

■化学物質

物質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大気	公共用水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	20,000	0	0	0	0	5,000	塗装
エチルベンゼン	19,000	0	0	0	0	4,000	塗装
トルエン	16,000	0	0	0	0	3,000	塗装

取扱物質総数 4

■大気データ

*規制値:大気汚染防止法、県条例、ダイオキシソ類対策特別措置法 ※単位:NOxはppm、ばいじんはmg/Nm³、ダイオキシソ類はng-TEQ/Nm³ ※規制値は、対象施設ごとに決められています。 ※表に記載されていない以下の項目はすべて定置限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。 硫酸酸化物、カドミウム、塩素、塩化水素、フッ素、フッ化水素、およびフッ化珪素、鉛、ベンゼン、トリクロロエチレン、ダイオキシソ

■水質データ

*規制値:水質汚濁防止法、県条例、ダイオキシソ類対策特別措置法もしくは下水道条例、協定 ※単位:COD-SS油分はmg/ℓ、ダイオキシソ類はpg-TEQ/ℓ ※ND:分析定量限界値以下(検出されない) ※表に記載されていない以下の項目はすべて定置限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。 pH、BOD、全窒素、全リン、フェノール類、総クロム、溶解性鉄、溶解性マンガン、フッ素、銅、亜鉛、カドミウム、総シアン、有機リン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン

■化学物質

*単位:kg



ふれあいを通じ地域社会に貢献

地域社会の一員として、互いの理解と信頼のもと、ともに成長していく関係を目指しています。地域や住民とのふれあいを通じて絆を深め、地域の活性化に貢献します。

活動理念

コベルコ建機グループは、グローバル企業としてさまざまな国や地域で事業展開するなかで、事業を行うエリアでの友好的関係づくりや信頼感の構築が重要だと考え、地域密着型かつ継続的なCSR活動を推進しています。地域に親しまれながら、ともに成長することを目指し、住民との交流や地域社会への貢献につながる活動に取り組んでいます。そのため支援の内容や方法は、従業員が自分で調べ、自ら参加することが基本です。活動を通して地域の特色や住民の思いを理解するとともに、コベルコ建機グループの担うべき役割について考える機会にもなっています。

また、地震などの大災害が発生した場合は、復興支援として義援金の提供や、現場で必要な建設機械の寄贈、オペレータの派遣などを行っています。必要なこと、可能なことを、広い視野で検討し、人や社会に貢献できる活動を実施しています。

コベルコ建機グループが地域社会や住民にとって不可欠な存在となれるよう、コツコツと活動を積み重ねています。

CSR基金

社会貢献活動をコベルコ建機グループとして支援・実践し、より積極的に継続的な活動を促進するため、2006年度にCSR基金を設立しました。CSR基金では地域社会はもとより、社会全体への貢献活動も積極的に支援。人材育成や世界各地での教育支援など、多彩な活動を支援しています。

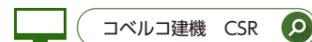
対象となる活動は社内で公募。地球環境の保全や地域社会への貢献など、コベルコ建機グループのCSR活動としてふさわしい国内外の活動に対して資金援助を行い、スムーズな運営や、継続的な活動につながるようサポートしています。

CSR賞制度

コベルコ建機グループでは毎年、各事業所やグループ会社を実施したさまざまなCSR活動の中から、最も優れた活動に対してCSR賞を授与しています。2007年度に制度を開始して以降、毎年多くの活動がノミネートされ、下記の基準で選考を実施、表彰しています。

- 環境対応、地域貢献、人材育成などのCSRへの取り組みにおいて、顕著な功績をあげたこと。
 - CSRへの取り組みを通して、コベルコ建機グループの名誉、またはブランドアップとなるような功績をあげたこと。
 - 産業災害やその他の災害を未然に防止、またはこれらの災害に際し人命救助をしたこと。
- 賞の授与を通じて、その活動を称えるとともに、より一層の活動を奨励しています。また、優れた活動を周知することで、ほかの取り組みの模範となり、より多くの優れた活動が育ってCSR活動が活性化することを目指しています。

●詳しい活動内容は、WEBをご覧ください。



<https://www.kobelcocm-global.com/jp/csr/>

IMPRESSION

コベルコの歩みを見つめて



「この授業おもしろい!」の声で活動を広く展開したいと思った

コベルコ建機(株)
生産設計部 上部旋回体開発グループ
奥西 隆之

広島CSR委員会では発明協会から依頼を受け、小学校への理科の出前授業を継続的に実施しています。子どもたちが真剣なまなざしで熱心に実験する姿を見ると、この授業が理科へ興味を持つきっかけになっていると感じます。CSR委員も張り切って授業を進めており、楽しみながら社会貢献できることに活動の魅力を実感しています。今後は、大久保、大垣事業所への展開を計画。将来的には海外の製造拠点にも広げて、共通の活動として成長していくことを目指しています。

TOPICS 継続的活動の成果

グループ各社で展開し、広がった大きな輪 エコキャップ活動

エコキャップ活動は全国各地の拠点で、2010年から続けている活動です。集めたキャップは定期的に、委託業者や地方自治体、学校を通じてリサイクルされます。ゴミの削減に加え、売却益は、世界各地の貧しい地域の子どものためのワクチン接種などに使われています。これまでにグループ累計39万7,762個(ポリオワクチン約468人分)を回収しました。「小さなことからコツコツと」これからも継続的に推進していきます。



シヨベルから学ぶ! 理系人材育成活動 理科の出前授業

小学生を対象に、油圧シヨベルを題材にした「てんびんとてこ」の授業を2010年より毎年継続して実施しています。ミニチュアシヨベルを使った実験など体験型の授業を行い、理科のおもしろさを伝えると同時に、建設機械に興味を持ってもらえるよう工夫しています。これまでは広島事業所のCSR活動として取り組んでいますが、今後は大久保や大垣事業所をはじめ、海外拠点を含む全社での活動を目指し、業界や社会の発展に寄与していきたいと考えています。



国内外に広がるさまざまな活動

活動一覧

岐阜
広島

福岡
中国(成都)

北海道~神奈川
東京・千葉

兵庫
兵庫

兵庫
広島

広島
広島

各事業所
各事業所

各事業所
各事業所

中国(杭州)
中国(杭州)

中国(杭州)
中国(杭州)

中国(杭州)

中国(杭州)

中国(杭州)

中国(杭州)

中国(杭州)

中国(杭州)

中国(杭州)

中国(杭州)

CSR基金による活動

- HIRO学園 建機写生大会
- コベルコ建機カップ
- 中学生レスキューロボットチャレンジ
- どこでいっく隊との地域活性化活動
- 慶興神鋼小学校への教育支援

国内での地域活動

- 学校訪問活動
- 企業訪問学習受け入れ
- コベルコラグビーフェスティバル参加
- KOBELCOの森 森林整備活動
- ECOWAYの森 森林整備活動
- 理科の出前授業
- グローバル・サイエンス・キャンパス(GSC)
- 現場体験授業
- 地域清掃活動
- エコキャップ収集活動
- 展示会でのCSRブース出展

海外での地域活動

- 河川清掃員への飲料提供
- 近隣幼稚園での植物植え活動
- 臘八節(春節前)の近隣住民へのお粥提供
- 地域清掃活動

地域イベントの参加

- 千葉土建まつり こどもビルドフェスタ
- しながわ夢さん橋
- 大垣十万石まつり
- 建設ふれあいまつり
- 広島県からくりくふう展
- クイーン・エリザベス号 五日市港寄港
- 「おもてなし隊」ボランティア
- はたらく車ショー



豊かで充実した生き方・働き方を追求

ワークスタイル変革

個人の幸せと企業力の向上を実現し、魅力ある会社であり続けることを目指したプロジェクト「ワークスタイル変革」が3年目に突入する。社員一人ひとりが生き方や働き方を見直すきっかけとなり、個人・会社・社会が互いに好影響を与え合うライフスタイルへの進化が、少しずつ見始めている。

2016年、コベルコ流働き方改革「ワークスタイル変革」の取り組みがスタートした。「効率よく働いて生産性をアップさせるためでもありますが、社員にとって仕事もプライベートも充実した快適なものであってほしいという願いがあります。心の余裕や豊かな気持ちが、個人はもちろん会社や社会にも良い影響を与え、好循環を生むと思っています」と実施責任者の細見浩之は目的を語る。

最初に着手したのは会議の改革だった。漫然とした会議をなくし、確実な成果を得られるようルールを整えた。「会議は時間を決め、必ず結論を出します。議事録をその場で仕上げるといことも徹底しました」。そのほか平行して進めたのが、業務時間の限定と、メールのルール制定・実施。これらを3本の柱として、業務の合理化と労働時間の短縮を目指した。

ICTも活用する。文書管理などのデータベースシステムはもちろん、数値入力などの単純な作業はパソコンに組み込んだロボットに任せ、業務は限られるものの、大幅な時間短縮ができる見通しだ。

結果、休日出勤は明らかに減り、退社時間も早くなった。年次有給休暇取得13日を目標にした「ミニマム13」は、2017年度に全員が達成。「習い事や趣味などの時間が増え、休暇も各自のライフスタイルに合ったタイミングで取っていると感じます。新しい働き方が浸透してきているのではないのでしょうか」と手ごたえを感じている。

会社も、増えた時間の有効活用をサポートする。それまで工場を中心に展開していた社内クラブ活動の補助をグループ全体の取り組みとして拡大。現在、マラソン部や軽音楽部など次々にエントリーがあり、順次社内クラブとして認定される予定だ。

有名無実化しやすい働き方改革が、コベルコ建機で成功している理由はどこにあるのか。「ひとつは、会社が本気だということでしょう。トップ自らがことあるごとに“働き方を見直せ”と連呼する会社は少ないと思います」。国内販売会社にも労働組合をつくるように号令をかけたのは社長自身だ。細見は続ける。「さらにもうひとつ。朝礼や通達だけでは表面的な働きかけになって浸透しないので、個々に都度、話し合っていました」。ヒアリングマラソンと銘打ち、全部署へのアンケートを実施、一人ひとりが抱える課題に丁寧な対応を重ねた。慣習や遠慮を取り除き、業務内容を精査し改善を繰り返したのだ。

「今後は家族はもちろん地域との関わりも増えていくと思います。仕事以外の活動を通じて視野を広げ、社会や地域への興味関心を深めて社員と会社、そして地域と一緒に成長していくことは、コベルコ建機が目指す理想の姿」と細見は期待を寄せる。コベルコ建機はこれからも、より良い社会の構築に向けて進化を続ける。



コベルコ建機(株)
常務執行役員
企画本部長

細見浩之

IMPRESSION

コベルコの歩みを見つめて



家族と過ごす時間が増えて
充実を実感する毎日

コベルコ建機(株)
企画本部 企画管理部 経営企画グループ マネージャー
岡本 真典

残業事前申請制度などの取り組みにより、時間意識がかなり強くなりました。自分を含め、職場全体にとって効率的な時間の使い方を工夫しています。帰宅が早くなり、家族団らんの時間が増えました。家事の手伝いもするのでも妻にも喜ばれています。早寝早起きに変化していて、心身ともにリフレッシュできる機会が増えた気がします。



会社員なのを疑われるくらい
上手に時間を使いたい

コベルコ建機(株)
法務・監査部 法務グループ マネージャー
山内 祐介

フレックスタイムを活用しやすくなるなど、柔軟な働き方ができるようになりました。会議も合理的で実のある内容に変わったと感じます。増えた時間はランニングや野球観戦、資格取得など、趣味やスキルアップに使っています。人からうらやましがられますが、次の目標は、毎日定時退社して「本当に働いているのか?」と言われることですね(笑)。

●ワークスタイル変革の取り組み事項



業務拘束時間の限定

19時以降の残業や、休日業務を原則禁止。フレックスタイムを活用した朝型勤務へのシフトを推奨。「退社宣言カード」を全員が机に提示し、周囲へ退社時間をあらかじめ知らせることで仕事の段取りをつけやすくなった。



KOBELCO流会議

会議は「話し合い」と「結論」の場とする。会議の時間割を決め、必要最小限の人数で開催。報告や、資料の配布は事前に済ませる。議事録は会議中に作成し、会議終了時に配布する(結論の確認を含む)。



KOBELCO流メール

「内容が一目で分かる件名をつける」「むやみにCCで送らない」「結論から書き、要件を簡潔にまとめる」などのガイドを作成。メールの処理に時間を取られないように工夫した。



ヒアリングマラソン

全部署を104グループに分け、社員一人ずつの業務内容と課題を提出。業務改善への対策や、阻害要因除去の参考とした。部署平均値での成果を求めめるのではなく、取り残される社員が生まれないよう個別にサポートした。



多彩なサポートで築く連携と信頼

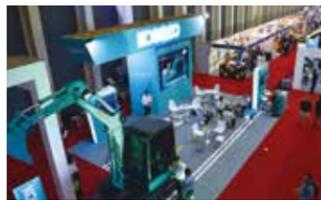
取引企業との情報共有やコミュニケーションの場を定期的に設け、相互の発展に努めています。職場においては、ダイバーシティやワークライフバランスを考慮した職場整備をはじめ、ワークスタイル変革も進行中です。

お客さま・取引企業との調和

お客さまや取引企業、関係会社と情報を共有し信頼を深めるために、セミナーや親睦会を実施。相互理解を進め切磋琢磨することで連携を強化し、ともに発展することを目指しています。

建設機械の展示会への出展

コベルコ建機の製品・技術を世界に発信するため、世界各地の建設機械展示会に出展しています。2017年3月に、世界三大建機展のひとつアメリカ・ラスベガスの「ConExpo-Con/Agg2017」に出展。また、2017年6月には、タイ・バンコクにて開催された「INTERMAT ASEAN 2017」へ参加し、東南アジア地域の統括会社であるKCMSA（協力：当社販売代理店Ariya Equipment Co.,Ltd.）がブースを出展しました。INTERMAT ASEANは、今回が初めての開催で、世界各国から約300社が出展。43カ国から約4,680人が来場しました。コベルコ建機の展示ブースでは、「Compact yet tough mini」（コンパクトでも高耐久なミニショベル）のコンセプトのもと、東南アジアにおいて需要が高まっている都市土木向けとしてミニショベルを展示し、遠方より多くのお客さまにお越しいただきました。



コベルコ・資源リサイクル会

国内で資源リサイクルに従事するお客さまに向けて、業界の最新情報を提供するセミナーを定期的に開催しています。14回目を数える「2017コベルコ・資源リサイクル会」では、建設リサイクル機械や金属リサイクル機械、産廃リサイクル機械について、製品や専用アクセサリー、カスタマイズなどについて紹介。ジャーナリストの櫻井よしこ氏を迎えた記念講演も行いました。今回も参加者の皆さまの情報収集や交流の場として多くの方にご来場いただき、好評を博しました。



生産連絡会

部品を供給いただいている取引企業をはじめとして、コベルコ建機グループの協力会社が一堂に会する生産連絡会を毎年開催しています。2017年度は160社357名が参加。建機業界の事業環境や需要動向、またコベルコ建機グループの中期経営計画における取り組みなどについて、理解を深めていただきました。引き続きの懇親会は、コベルコ建機グループの経営陣との親睦の場でもあり、率直な意見交換を行う良い機会にもなっています。



「9th Global Service & Parts Manager Meeting」を開催

世界各地の現地法人から、サービスと部品担当の責任者を集結し、「9th Global Service & Parts Manager Meeting」を開催しました。この会議は、サービス・部品拡販活動の情報共有や品質向上を目的に、年に1度実施されています。2017年度は、コベルコ建機(株)からCS部をはじめ、研修・部品・営業部門が参加。各国からの参加者を合わせた約50名が活発な意見交換を行い、より良いサービス、品質アップのための重要な場となりました。

職場づくり・人づくり

仕事の充実感と同時に、家庭や地域など個人生活の充実も図るため、ワークライフバランスへの取り組みや、社会の変化に対応したダイバーシティの推進などを積極的に実施。働きやすい職場づくり・人づくりに努め、働き方の改革を進めています。

ワークスタイル変革

従業員一人ひとりの仕事と暮らしをともに充実させるため、神戸製鋼グループ全体で取り組んでいる「働き方改革」。コベルコ建機グループでは、業務時間の限定と業務の高度化により、「個々人の幸せ」と「会社の幸せ」を向上させることを目的に「ワークスタイル変革活動」を積極的に展開しています。具体的には、①時短（業務拘束時間の限定）②KOBELCO流会議推進 ③KOBELCO流メール推進 ④業務改革を4本柱に、朝方勤務への移行、スマート会議推進による会議の効率化、KOBELCO流メールのルール周知・実践、業務改革推進者の設置などを主に実施しています。現代社会に合った新しい生き方・働き方を求め、これらの活動を引き続き実践・推進し、より良い制度や体制を整えていきます。

ダイバーシティの推進

2017年度の取り組みとして、LGBTの方に対し差別を行わないということを行動規準に明記しました。また、宣言だけでなく、みんなが正しくLGBTを理解することが重要と考え、研修にて理解を深める活動を推進。女性活躍については、「働き続けられる」「働きたい」「活躍できる」環境づくりを女性自らが行うことを目的に、KW☆PJ（コベルコウーマンキラキラプロジェクト）がスタートしました。労働時間は女性活躍を進めるにあたり重要な要素であるため、社内で活動しているワークスタイル変革活動に対し、会社として取り組みを希望することや、一人ひとりが効率化として取り組んでいることなどの声を集め、女性活躍がしやすい環境づくりに生かしています。



人材育成

グローバル人材育成

事業のグローバル化が加速的に進む中、世界の競合他社に打ち勝つ力を持ち、グローバルに活躍できる人材を効率的かつ継続的に育成する取り組みを行っています。語学力はもちろん、異文化理解やコミュニケーションスキルなど、必要な知識や能力を身につける研修を実施する一方で、若いうちから海外駐在を経験する機会を設けるなど、OFF-JTとOJTの両面からグローバル人材の育成を推し進めています。

行動能力診断・階層別人材育成

業績などの成果は全て行動から生み出されるという考えのもと、「行動能力」を軸とした人材育成体系を構築し、活用しています。個人の行動能力を定期的に測定し、結果を本人が客観的に把握できるようにしています。また、従業員の職位階層ごとに「あるべき姿」を定義し、必要な能力やスキルが身につけられるよう、段階的な目標設定や研修を実施。早期に第一線で業務遂行ができるよう、充実した人材育成を行っています。

研修体系について

役員	幹部研修		
管理職	リーダー研修	OJT研修	eラーニング研修
	ビジネスリーダー候補育成		
	参与補研修		
	経営マネジメントスクール		
	参事3年目研修		
中堅社員	新任管理職研修	eラーニング研修	語学研修
	指導職1級研修		
	指導職2級研修		
若手～中堅社員	課題形成研修	eラーニング研修	語学研修
	入社5年目研修		
若手社員	入社4年目研修	eラーニング研修	語学研修
	入社3年目研修		
新入社員	入社2年目研修	eラーニング研修	語学研修
新入社員	新入社員研修（基礎力強化、資格取得等）		

IMPRESSION

コベルコの歩みを見つめて

**自分なりの働き方を
実現できる職場**

GEO 開発本部 生産設計部
内装部品開発グループ
甲斐 美紀

前職では、多少無理をしても周りのペースに合わせる働き方をしていましたが、コベルコ建機では、無理・無駄は課題として解決させることを推奨され、働き方の意識が変化しています。今後も環境や業務効率の改善案を模索しながら、自分なりの働き方改革を進めたいと思います。

**女性目線の改善で
品質向上に寄与**

生産本部 大垣事業所 製造室
中川 依久帆

組立ラインの検査員として、ミニショベルの仕様面や外観等の検査をしています。私たちのアイデアが採用され、検査内容を数値で表すなど具体化したことで、前工程の作業不備が減って品質が向上しました。今後も高品質な製品を維持するべく、私たち女性も活躍していきたいです。

**世界中に
安全・安心を届けたい**

技術管理グループ(大久保駐在)
肖 子恒

製品が世界各国のルールに適合するよう、法律や規格を調査・確認しています。そのため英語、日本語、中国語と日々格闘していますが、製品の信頼向上の役に立てることを幸せに感じています。知識も経験もまだ不十分ですが、世界中に安全・安心を届けることにチャレンジし続けたいです。

コンプライアンス

コベルコ建機グループでは、全ての差異を超えた「人」としての基本的な行動指針として、コンプライアンスの強化に努めています。そのためには役員をはじめ従業員一人ひとりが常にコンプライアンスを意識して行動できるような環境が必要と考え、新しい仕組みづくりや、研修などを通じた意識改革などを実施。さまざまな取り組みを通じ、コンプライアンスの徹底を図っています。

コンプライアンスへの取り組み

企業活動の大前提は「コンプライアンスの遵守」にあるという考えのもと、判断基準／行動基準の優先順位を意識しながら、日々の業務に取り組んでいます。

どのような判断／行動であっても、「倫理観に則った誠実で真摯な判断／行動をしていると胸を張って言えるか」を常に自問自答し、コンプライアンスに沿った適切な判断／行動を実行できるように、従業員の教育研修を繰り返し行っています。

特に近年は「コベルコ建機グループのコンプライアンス」を推進する活動を国内のみに留まらず、海外のグループ会社においても積極的に行っています。活動実施に当たっては、コンプライアンスへの意識を促すとともに、法律・社会習慣・慣行などの相違点を理解しながら現地の状況に合わせた活動を展開しています。



インドネシアでの研修の様子(2017年10月)

海外でのコンプライアンス強化に向けた取り組み

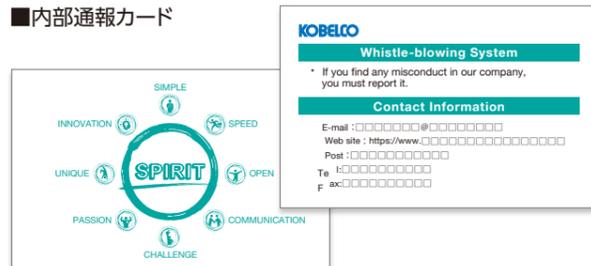
内部通報システムの導入

コベルコ建機グループでは、海外のグループ会社に対してコンプライアンスの教育研修だけでなく、コンプライアンス体制強化策のひとつとして、内部通報システムの導入を順次進めています。2017年度はタイ・インドネシア・マレーシア・ベトナム・シンガポールなどの東南アジア諸国、そして中国での導入を完了しました。今年度はさらに、インド、アメリカへと導入を進めていく計画です。

すでに日本では国内グループ会社への展開も完了しており、周知が進んでいる内部通報システムですが、海外ではまだなじみのない国も多々あります。法務・監査部コンプライアンス統括グループでは、内部通報システムを導入することでゴールとは考えず、現地で適切な運用がなされるように、各海外現地法人に対して継続的なサポートを行っています。

東南アジアでは、内部通報システムを従業員が利用しやすいように、内部通報の連絡先を記載した名刺サイズの内部通報カードを従業員に配布しています。

内部通報カード



安全保障貿易管理研修

コンプライアンス統括グループでは、海外のグループ会社におけるコンプライアンス強化活動の一環として、安全保障貿易管理に対する取り組みも合わせて行っています。

2017年度は、安全保障貿易管理上の懸念地域で活動するアラブ首長国連合・中国の現地法人に対して安全保障貿易管理研修を実施しました。今年度は、コベルコ建機グループの工場があるタイ・アメリカで、研修を通して安全保障貿易管理に対する意識を高めていく予定です。

安全保障貿易管理のチェックポイント

- POINT 01 【該非判定の確認】**
●リスト規制品に該当するか否か
- POINT 02 【顧客審査】**
●最終顧客は危険顧客ではないか
- POINT 03 【用途審査】**
●どのような用途で使用されるのか

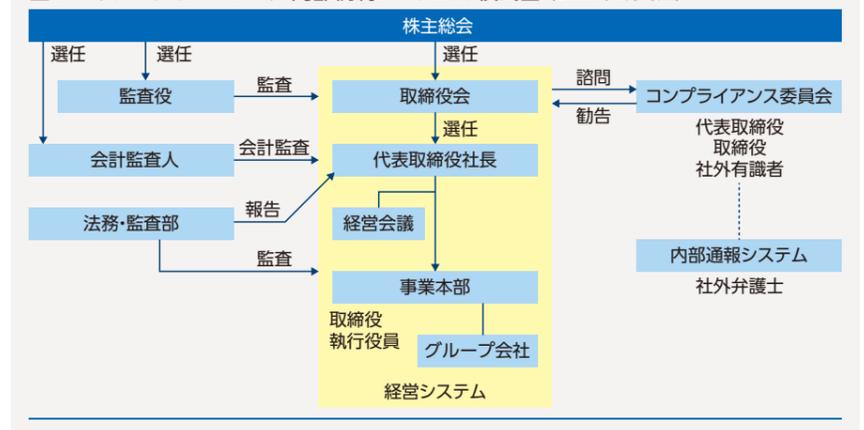
コーポレートガバナンス

企業の社会的な役割と責任を果たし、公正で健全かつ効率的な経営を行うために、企業統治の仕組みを整えています。

コーポレートガバナンス体制

コベルコ建機グループは、企業価値の向上に向けて、より透明性の高い公正で効率的な経営の実現と、業務執行における迅速かつ確かな意思決定を目的に、コーポレートガバナンス体制を構築しています。また、企業としての浄化作用を促進し、健全な企業風土を維持するための仕組みとして、外部弁護士を受付窓口とする「内部通報システム」を設置。万一、不正が起きた場合、早期に事実および原因を客観的に把握し、遅滞なく合理的な対策を講ずることに努めています。

■コーポレートガバナンス／内部統制システムの模式図 (2018年4月時点)



コベルコ建機グループの概要

●会社概要

会社名 コベルコ建機株式会社
 英文社名 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO.,LTD.
 創立 1999年(平成11年)10月1日
 事業所所在地 東京本社：東京都品川区北品川5丁目5番15号
 (大崎プライトコア5F)
 TEL.03-5789-2111(代)
 広島本社：広島県広島市佐伯区五日市港2丁目2番1号
 TEL.082-943-5321(代)
 U R L グローバルサイト
<https://www.kobelcocm-global.com>
 日本エリアサイト
<https://www.kobelco-kenki.co.jp>
 資本金 160億円
 株主構成 株式会社神戸製鋼所100%
 代表者 代表取締役社長 橋本 一秀 (ならきかずひで)
 事業内容 建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス
 従業員数 1,715名(グループトータル6,864名)[2017年3月末時点]

●国内の主な関係会社

東日本コベルコ建機(株)、西日本コベルコ建機(株)、コベルコ建機エンジニアリング(株)、コベルコ建機インターナショナルトレーディング(株)、コベルコ教習所(株)、(株)ササイナカムラ、(株)常南、トーヨースギウエ(株)、(株)ワイズヨシハラ

●海外の主な関係会社

神鋼建機(中国)有限公司、成都神鋼建機融資租賃有限公司(中国)、杭州神鋼建設機械有限公司(中国)、神鋼起重機(上海)有限公司(中国)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY SOUTHEAST ASIA CO., LTD.(タイ)
 KOBELCO INTERNATIONAL (S) CO., PTE. LTD.(シンガポール)
 RICON PRIVATE LTD.(シンガポール)
 PT. DAYA KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIA(インドネシア)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY VIETNAM CO., LTD.(ベトナム)
 KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT. LTD.(インド)
 KOBELCO CRANES INDIA PVT. LTD.(インド)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY. LTD.(オーストラリア)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY MIDDLE EAST & AFRICA FZCO.(U.A.E.)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.(米国)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.(オランダ)
 KOBELCO CRANES EUROPE LTD.(英国)

編集後記

コベルコ建機(株)
 総務部CSR推進グループ

社内外でのさまざまな活動を通じ成長する姿を見ていただきたい

今回の「社会環境報告書2018」は、「人と社会とともに成長する」をテーマに、コベルコ建機グループ内で働く多くの人の声を集め、継続することで生まれた成果や成長を感じていただけるような編集を志しました。トップメッセージでは社長が事業活動について説明するとともに、社内における働き方改革についても紹介しています。同改革は2016年にスタートし、全従業員が働きがいのある環境で、やりがいのある仕事ができるよう取り組みを進めており、実施責任者の担当役員や従業員のインタビューも掲載しました。また、四川大地震をきっかけに始まった支援活動も10年という節目を迎え、改めて復興支援について振り返っています。

これからも事業とCSR両輪で活動の輪を広げながらも、現在の活動を継続し深めていくことで、事業地域の皆さまとともに成長し、必要とされ続ける企業を目指していきます。